

課題名	ショウジョウバエ系統の長期安定保存技術の開発
課題管理者	山本 雅敏 京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター
実施期間	2007 - 2009 年度
概要・実施体制	<p>生命科学研究における遺伝資源モデル生物としてのショウジョウバエの需要は今後もますます高まり、維持系統数が確実に増大する。ショウジョウバエの系統維持は継代飼育法に依存していることから、将来の系統数の増大に対応する低コストでの長期安定維持技術の開発が強く求められている。初期胚の凍結保存が不可能であることから顕微授精技術の開発を行い、ショウジョウバエ遺伝資源の維持技術として応用することを目的とする。</p> <p>このため、国立大学法人京都工芸繊維大学では、受精能を有する未受精卵の採卵技術の確立、精子頭部の摘出と未受精卵への顕微授精技術の開発、さらに精子の凍結等長期保存技術の検討を行う。</p>
成果	<p>発表論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Takemori N, Yamamoto MT 2009 Proteome mapping of the <i>Drosophila melanogaster</i> male reproductive system. <i>Proteomics</i> 9:2484-2493. DOI: <a href="https://doi.org/10.1002/pmic.200800795">10.1002/pmic.200800795</a>.</li> <li>・ Yamamoto MT, Takemori N 2010 Proteome profiling reveals tissue-specific protein expression in the male reproductive system of <i>Drosophila melanogaster</i>. <i>Fly</i> 4:36-39. DOI: <a href="https://doi.org/10.4161/fly.4.1.10838">10.4161/fly.4.1.10838</a>.</li> </ul> <p>2007 年分子生物学会展示 <a href="#">ポスター</a> (基盤技術整備プログラムは右下 1/4 のみ : 2.1MB)  2008 年動物学会展示 <a href="#">ポスター</a> (基盤技術整備プログラムは右上 1/4 のみ : 2.9MB)  2008 年分子生物学会展示 <a href="#">ポスター</a> (3.5MB)  2009 年分子生物学会展示 <a href="#">ポスター</a> (3.6MB)  2007 年作製知のシーズ集 <a href="#">原稿</a> (0.18MB)  2011 年作製知のシーズ集 <a href="#">原稿</a> (0.17MB)</p>